

A 記述式問題

1. 食べる機能の 5 段階とは何か、簡単に説明しなさい。
 2. 摂食・嚥下障害はどうすれば発見できるのか、簡単に説明しなさい。
 3. 客観的評価としての嚥下造影検査を簡単に説明し、誤嚥の分類について簡単に説明しなさい。
 4. 口腔ケアを必要とする要介護高齢者によくみられる症状や状態について述べよ。
 5. 唾液の機能として重要なものを 5 つ挙げて説明せよ。
 6. 基本的な口腔ケアについて述べ、さらに経口摂取をしていない患者に対する口腔ケアの考え方を述べよ。
 7. 嚥下機能は問題ないのに経口摂取が進まない場合、どのような原因が考えられるか？
 8. 胃瘻（PEG）を造設した際の合併症とその対策について述べよ。
 9. 誤嚥と誤飲の違いを述べよ。
 10. 嚥下音（ゴックン）の発生のメカニズムについて考えを述べよ
 11. 嚥下反射の調節に関与する神経機構を簡単に図示し説明し、球麻痺・仮性球麻痺の特徴を述べよ。
 12. 脳卒中と神経疾患における嚥下障害の特徴を比較し簡単に説明せよ
- （上記の問題より 5 問選択し、回答せよ）

B 選択問題

(問 1 から問 50 の問題は選択問題です。出題の指示に従って解答用紙に正解の記号番号を記入してください)

問 1 近年、わが国における死因の第 4 位はどれか。

1. 不慮の事故 2. 肺炎 3. 悪性新生物 4. 脳血管疾患 5. 心疾患

問 2 脳卒中の危険因子を 2 つあげよ。

1. 高血圧症 2. アレルギー性気管支炎 3. 慢性肝炎 4. 糖尿病 5. 痴呆症

問 3 長期臥床の主な合併症を 3 つあげよ。

1. 肺炎 2. 胃潰瘍 3. 褥瘡 4. 心不全 5. 廃用性痴呆

問 4 嚥下運動に関与するものを 3 つあげよ。

1. 三叉神経 2. 迷走神経 3. 顔面神経 4. 副神経 5. 滑車神経

問 5 高齢者の廃用症候群について正しい組合せはどれか。

- a. 骨萎縮 体重負荷の欠如と筋萎縮
b. 尿路結石 過度の水分摂取
c. 静脈血栓症 尿路感染
d. 褥瘡 長時間の圧迫
e. 起立性低血圧 臥床の継続

- 1 a, b, c 2 a, b, e 3 a, d, e 4 b, c, d 5 c, d, e

問 6 正常嚥下時に認められないのはどれか。

1. 食塊形成 2. 鼻咽腔閉鎖 3. 喉頭挙上 4. 喉頭閉鎖 5. 胸腔圧内上昇

問 7 咀嚼筋の支配神経はどれか。

1. 三叉神経 2. 顔面神経 3. 舌咽神経 4. 迷走神経 5. 舌下神経

問 8 鼻咽腔閉鎖機能検査として用いられないのはどれか。

1. ファイバースコープ 2. ブローイング検査 3. 鼻息鏡検査 4. 鼻腔通気度検査 5. エックス線検査

問 9 嚥下時の喉頭挙上に関与するのはどれか。(正しい組合せはどれか)

- a. 胸骨舌骨筋 b. 胸骨甲状筋 c. 胸鎖乳突筋 d. 甲状舌骨筋 e. オトガイ舌骨筋

- 1 a, b 2 a, e 3 b, c 4 c, d 5 d, e

問 10 咽頭食道造影検査で正常な所見はどれか。

1. 造影剤の鼻咽腔への逆流
2. 造影剤の梨状窩での残留
3. 喉頭下降後の造影剤の喉頭内への流入
4. 後上方への喉頭挙上

5. 1 椎体間の喉頭挙上

問 11 嚥下訓練におけるアイスマッサージ法の目的はどれか。

1. 咽頭の収縮
2. 咽頭期嚥下の誘発
3. 輪状咽頭筋の弛緩
4. 喉頭の閉鎖
5. 鼻咽腔の閉鎖

問 12 高齢者が誤嚥を起こしやすい原因として正しいのはどれか。

1. 嚥下筋の筋力低下
2. 渴中枢感受性の低下
3. 咽頭反射の亢進
4. 水分耐容力の減少

問 13 次の文章で正しいものはどれですか。(1つ)

- ①反復唾液飲みテストは2回が正常である。
- ②水飲みテストは50mlの水で検査する。
- ③反復唾液飲みテストでは、むせのない誤嚥まで検出できる。
- ④嚥下造影検査では誤嚥だけを見るのがよい。
- ⑤嚥下造影検査は、むせのない誤嚥の検出に優れている。

問 14 次の文章で正しいものはどれですか。(3つ)

- ①嚥下造影検査では、飲み込みやすい体位を検討する必要はない。
- ②嚥下造影検査の造影剤は、一般的には硫酸バリウムでよい。
- ③電気声門図検査も嚥下障害の評価に用いられる。
- ④反復唾液飲みテストでは喉頭が連続して上がるかどうかで、嚥下の状況を見る検査である。
- ⑤内視鏡検査はかなり特殊な検査である。

問 15 次の文章で正しいものはどれですか。(3つ)

- ①先行期とは食べ物を認識し、どのように食べるかを決定する時期である。
- ②咽頭期は咽頭から食道に食塊を移送する時期で、誤嚥が一番の問題である。
- ③食道期は食塊を食道から胃に送り込む時期で、運動形態は蠕動運動である。
- ④口腔期から食道期までの運動形態は、すべて一緒である。
- ⑤準備期は食塊を咽頭に送り込む時期である。

問 16 次の文章で正しいものはどれですか。(2つ)

- ①摂食・嚥下障害では脱水が問題となる。
- ②摂食・嚥下障害では低栄養が問題となる。
- ③摂食・嚥下障害では窒息は問題とならない。
- ④摂食・嚥下障害ではQOLがたいへん高い。

問 17 次の文章で正しいものはどれですか。(2つ)

- ①輪状咽頭筋の弛緩時間は2秒である。
- ②嚥下反射の1次中枢は延髄にある。
- ③嚥下反射は喉頭が前上方に動くことで起こる。
- ④大脳皮質は、延髄に対して嚥下反射が起こりにくいように制御している。
- ⑤睡眠剤は嚥下反射を起こりやすくする。

問 18 次の文章で誤っているものはどれですか。(3つ)

- ①脳卒中に合併する嚥下障害は、急性期には20%である。
- ②誤嚥すれば必ずむせるし、肺炎を起こすことになる。
- ③動的嚥下障害を起こす疾患は、脳卒中や神経筋疾患などが代表的である。
- ④脳卒中で嚥下障害が慢性期まで残存する病変は、脳幹部損傷の可能性が十分ある。
- ⑤球麻痺とは、大脳が広汎に障害を受けた時に起こる嚥下障害である。

問 19 次の文章で誤っているものはどれですか。(1つ)

- ①意識障害がある時には、嚥下障害を注意しなければならない。
- ②気管切開の患者は、嚥下障害が合併していることが多い。
- ③口腔および顔面に麻痺がある時は、嚥下障害を疑った方がよい。
- ④構音障害があれば、必ず嚥下障害が合併する。

問 20 次の文章で誤っているものはどれですか。(3つ)

- ①むせのない誤嚥は、慢性期の脳卒中には存在しない。
- ②正常の喉頭挙上距離は、1横指(人さし指)以上である。
- ③湿性嗅声とは単にしわがれ声のことをいう。
- ④特定のものを食べなくなったのは、嚥下障害とは関係ない。
- ⑤喉頭挙上運動の方向は上前方である。

問 21 次の文章で誤っているものはどれですか。(3つ)

- ①感情失禁や注意力障害などは、準備期障害患者などにみられる。
- ②下顎の運動は上下運動(開閉)だけである。
- ③咽頭期障害の直接原因として、入れ歯の問題がある。
- ④胃食道逆流現象は高齢者に多い。
- ⑤食べ物が胸につかえる時は、食道期障害を考える。

問 22 高齢者で義歯に付着するプラークが関与するものはどれか。(正しい組合せはどれか)

1. 唾液PHの上昇
 2. 誤嚥性肺炎
 3. 口臭
 4. 義歯性口内炎
 5. 残存歯のう蝕
- a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5) d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

問 23 構音検査法で正しいものはどれか。(正しい組合せはどれか)

1. 単音節復唱検査
 2. ブローイング検査
 3. 咬合音検査
 4. 発話明瞭度検査
 5. パラトグラム
- a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5) d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

問 24 口腔内から触診できるものは何か.

- a 側頭筋
- b 咬筋
- c 内側翼突筋
- d 顎二腹筋
- e 胸鎖乳突筋

問 25 顔面神経麻痺の症状でみられないものはどれか.

- a 閉眼不全
- b 側鼻唇溝の消失
- c 人中の患側への偏位
- d 患側口角の下垂
- e 味覚の消失

問 26 唾液分泌量の減少によって低下するのはどれか. (正しい組合せはどれか)

- 1. 義歯の維持力
 - 2. 咀嚼能率
 - 3. 咬合力
 - 4. う蝕活動性
 - 5. 味覚
- a. (1) (2) (3) b.(1) (2) (5) c.(1) (4) (5) d.(2) (3) (4) e.(3) (4) (5)

問 27 正しい組み合わせはどれか.

- a) 呼吸訓練 --声門閉鎖促進
- b) 歯牙のブラッシング--流涎改善
- c) 口唇閉鎖訓練 --口腔内知覚改善
- d) 顎引き嚥下 --喉頭挙上と食道入口部開大
- e) プッシング法 --喀痰排出

問 28 正しい組み合わせはどれか.

- 1) 咽頭期障害 --固形物が食べにくい
 - 2) 先行期障害 --食べ物に無反応
 - 3) 準備期障害 --食後に咳が出る
 - 4) 食道期障害 --上を向いて飲み込む
 - 5) 口腔期障害 --流涎が多い
- a (1), (2) b(2), (3) c(2), (5) d(3), (5) e(3), (4)

問 29 正しいのはどれか.

- a) VF 検査をしないと直接訓練を実施してはいけない
- b) 呼吸に関しては、嚥下時の呼吸型に注意していればよい
- c) 嚥下機能検査には、旭式発話メカニズム検査や標準失語症検査補助テストも含まれる

- d) VE 検査のメリットは、実際の摂食場面での検査が可能な事である
e) 精密水のみテストは、1ml→5ml→10ml→30ml の順で与え飲み込んでもらう方法で行なう

問 30 誤っている組み合わせはどれか。

- a) 嚥下反射惹起障害 -- 咽頭のアイスマッサージ
b) 軟口蓋挙上運動障害 -- 頸部前屈
c) 舌根運動障害 -- 努力嚥下
d) 喉頭挙上障害 -- メンデルゾーン手技
e) 喉頭閉鎖障害 -- 息止め嚥下

問 31 食事介助に関して正しいものはどれか。

- a) 1 口量は、多ければ多いほど口腔内圧が高まりやすいので、多くの量を口にに入れる。
b) 誰に対しても同じペースで口に運んだ方が、介助される側もリズムが取れやすく食べやすい。
c) 介助される側が疲れていても、摂取量が全体の半分以下であれば、時間をかけてでも半分量を摂取してもらう。
d) 楽しく食事をしてもらう為、たくさん会話するように促す。
e) 上を向いて飲み込む人には、重力を利用した姿勢などを検討する。

問 32 嚥下のステージと脳神経との関係で正しくないものを一つ選べ。

- ア 先行期 . -- 視神経、
イ 準備期 . -- 三叉神経、
ウ 口腔期 . -- 舌下神経、
エ 咽頭期 . -- 迷走神経、
オ 食道期 . -- 副神経

問 33 嚥下障害の機能的原因でないものを一つ選べ。

- ア 脳梗塞、
イ パーキンソン病、
ウ ヒステリー、
エ 線条体黒質変性症、
オ 頭部外傷

問 34 仮性球麻痺について障害を受けない部位を一つ選べ。

- ア 延髄、
イ 内包、
ウ 放線冠、
エ 大脳皮質下、
オ 大脳皮質

問 35 CT と MRI について正しくないものを一つ選べ。

- ア CT では被爆する、
イ MRI では骨に取り囲まれた部位がとらえにくい、
ウ CT は新鮮な出血は白く描出される、

- エ MRI では超急性期の脳梗塞が診断できる、
- オ MRA では脳動脈の閉塞が診断できる

問 36 脳塞栓症について正しくないものを一つ選べ。

- ア心房細動が原因のことが多い、
- イ症状は概して重い、
- ウ出血性脳梗塞を伴いやすい、
- エ脳主幹動脈が閉塞する、
- オ徐々に症状が進行し完成する

問 37 発語障害、嚥下障害、呼吸障害などをなんと総称するか？

- a 高次脳機能障害
- b 球症状
- c 植物状態
- d 運動失調
- e . 失外套症候群

問 38 一般用語と専門用語の組み合わせで間違いはどれか？

- a とこずれ—褥瘡
- b のどぼとけ—甲状軟骨
- c くるぶし—外顆
- d みぞおち—心窩部
- e のどちんこ—口蓋帆

問 39 消化管の蠕動がもっとも活発に起きると考えられている栄養法を 2 つ挙げよ

- a 経鼻胃管栄養
- b 経口的栄養摂取
- c 胃瘻栄養法
- d 間欠的食道栄養法
- e 小腸瘻栄養法

問 40 褥瘡治療において、さほど重要でない栄養素ひとつを選べ

- a . ビタミン C
- b ビタミン D
- c タンパク質
- d 亜鉛
- e 鉄

問 41 嚥下障害患者の嚥下訓練時の体位で、もっとも安全な体位は？

- a 仰臥位
- b 座位前屈位
- c 座位後屈位

d 腹臥位

e 側臥位

問 42 嚥下障害患者で、もっとも逆流性肺炎（誤嚥性肺炎）を起こしやすい栄養法は（ひとつ）？

a 経鼻胃管栄養法

b 胃瘻栄養法

c 小腸瘻栄養法

d 間欠的食道栄養法

e 経鼻十二指腸管栄養法

問 43 嚥下造影時に準備する物で誤りを選んでください。

a. 模擬食品の準備

b. 検査前後の口腔ケア

c. 吸引の準備と聴診器

d. 酸素分圧モニターの準備

e. 表面麻酔剤

問 44 嚥下障害を疑う症状について誤りを選んでください。

a. 食物が口からこぼれる

b. 食物が口の中に残る

c. 食物を飲み込んだときにむせる

d. 食物を飲み込んだ後に、少し間をおいてむせる

e. 食物を飲み込んででもむせないので安心

問 45 嚥下障害のある人の食事介助で誤りを選んでください。

a. 頸部を前屈位にする

b. 食物を舌の先端に置く

c. 片麻痺のある人で、側臥位の時は健側を下にする

d. 片麻痺のある人は、麻痺側に枕などを利用して体位を安定させる

e. 片麻痺のある人は、健側から介助する

問 46 口腔ケア時の注意で正しいものを選んでください。

a. 口腔ケアをする前に誤嚥しにくい体位にした

b. 自分の歯がないので歯磨きはしなくてよい

c. 絶食中なので義歯ははずしたままにした

d. 絶食中なので口腔ケアは必要ない

e. 1日1回イソジンガーグルで拭く

問 47 嚥下障害のある人の食事について誤りを選んでください（2）。

a. 刻み食が適切である

b. 汁物が誤嚥しにくい

c. 軟らかくなるまで煮込む

- d. 葛粉・片栗粉でとろみをつけたり、あんかけにすると誤嚥しにくい
- e. 油を使って喉ごしのよいものにする

問 48 急性期における嚥下障害の評価について正しいものはどれか（3つ）

- a. 急性期には嚥下障害の頻度は20%程度である
- b. 急性期経口摂取開始は3mlの水のみで嚥下反射を認めてから行う
- c. 急性期経口摂取開始は意識レベルがJCSで2桁でも良い
- d. 急性期経口摂取開始は全身状態が安定してから行う
- e. 急性期には脳高次機能の評価が大切である

問 49 慢性期における嚥下障害の特徴で誤っているのはどれか（2つ）

- a. 慢性期まで長期化した原因には延髄病変の関与が大きい
- b. 慢性期の嚥下障害では全身局所の廃用性の評価が大切である
- c. 慢性期の嚥下訓練は短期間で結果がやすい
- d. 慢性期の嚥下障害の治療には手術的なものも考慮する
- e. 慢性期の嚥下障害の代替栄養はN-Gチューブである

問 50 誤嚥性肺炎について正しいものはどれか（3つ）

- a. 口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防になる
- b. 誤嚥すると誤嚥性肺炎は必発である
- c. ARDSは化学性肺炎が原因でおこる
- d. 無気肺は誤嚥が原因ではない
- e. 高齢者では一般的な肺炎症状がでにくい